

平成 28 年度購入文化財一覧【京都国立博物館】（計 10 件）

- 1 ○種 別 〈絵画〉
 ○名 称 蝦蟇河豚相撲図（がまふぐずもうず）
 ○作 者 等 伊藤若冲筆
 ○時 代 江戸時代（18 世紀）
 ○品 質 紙本墨画
 ○員 数 1 幅
 ○寸 法 等 縦 101.3cm、横 43.0 cm
 ○作品概要 蛙と河豚が組み合う様子を描いた珍しい作品。伊藤若冲（1716～1800）の水墨画は数多く現存しているが、他に類を見ない珍しい主題の本作は、画家の意外なほどユーモラスな一面をうかがわせる。50 歳代頃の制作と見られる。
 ○購入金額 18,000,000 円



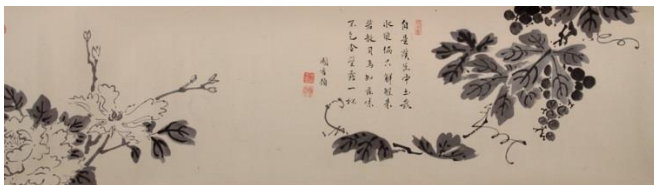
（蝦蟇河豚相撲図）

- 2 ○種 別 〈絵画〉
 ○名 称 耕作図屏風（こうさくずびょうぶ）
 ○作 者 等 狩野永良筆
 ○時 代 江戸時代（18 世紀）
 ○品 質 紙本着色
 ○員 数 6 曲 1 隻
 ○寸 法 等 縦 165.3、横 347.8 cm
 ○作品概要 京狩野 6 代目・永良（1741～71）の数少ない大作として貴重。もと一対を構成していた右隻の所在は不明だが、現実の農村風景を見るような優れた風俗描写は、画家の知られざる一面をも示している。
 ○購入金額 6,000,000 円



（耕作図屏風）

- 3 ○種 別 〈絵画〉
 ○名 称 墨花争奇図巻（ぼっかそうきずかん）
 ○作 者 等 大岡春卜筆
 ○時 代 江戸時代 宝暦 7 年（1757）
 ○品 質 紙本墨画
 ○員 数 2 巻
 ○寸 法 等 上巻 縦 28.8×横 1238.0 cm、下巻 縦 28.8×横 1468.0 cm
 ○作品概要 大坂に住した大岡春卜（1680～1763）だが、大覚寺など京都での活動も見逃せない。本作には、大覚寺門主・寛深をはじめ高僧や学者等 26 名が題跋・賛に名を連ねており、春卜の京都における活動とその意義を示す重要作である。
 ○購入金額 3,240,000 円



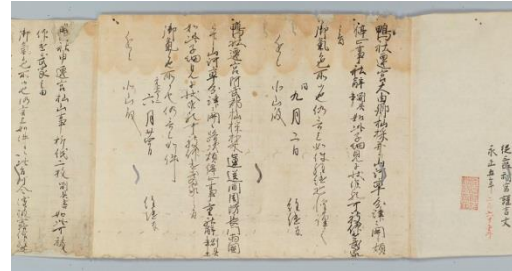


(墨花争奇図巻) 写真は部分

- 4 ○種 別 <書跡>
 ○名 称 賀茂御祖神社関係文書 (かもみおやじんじゃかんけいもんじょ)
 ○時 代 鎌倉～江戸時代 (12～17世紀)
 ○品 質 紙本墨書
 ○員 数 5巻
 ○寸 法 等 巻第一 縦30.3cm 全長664.8cm、巻第二 縦31.8cm 全長459.6cm、巻第三 縦27.4cm 全長926.6cm、巻第四 縦32.0cm 全長420.6cm、巻第五 縦31.1cm 全長941.5cm、
 ○作品概要 賀茂御祖神社 (下鴨神社) に伝来、散逸した古文書。文治四年 (1188) 九月十九日付の越中国寒江庄田畠散用注進状より、寛永九年 (1632) 五月二十四日付の御蔭社正殿清祓にいたる全四十七通が五巻に成巻されている。
 ○購入金額 32,400,000円



(賀茂御祖神社関係文書) 写真は六波羅探題下知状 (後欠)



(賀茂御祖神社関係文書) 写真は賀茂御祖神社領関係文書

- 5 ○種 別 <彫刻>
 ○名 称 行道面 菩薩 (ぎょうどうめん ぼさつ)
 ○時 代 鎌倉～南北朝時代 (14世紀)
 ○品 質 木造漆箔彩色
 ○員 数 1面
 ○寸 法 等 面長22.7cm、面幅19.4cm、高15.1cm
 ○作品概要 行道は寺院における儀礼などに際して、仮面をつけて境内などを練り歩くもので、おそくとも平安時代初期にはじまった。それに用いられる仮面には、獅子頭、八部衆、十二天など多くの種類がある。本面のように中世にさかのぼり出来栄もよい行道面は、なかなか市中に出回ることが少なく、極めて貴重なものである。
 ○購入金額 2,160,000円



(行道面 菩薩)

- 6 ○種 別 <金工>
 ○名 称 重要文化財 金熨斗刻鞆大小拵 (きんのしきざみさやだいしょうこしらえ)
 ○時 代 江戸時代 (17世紀)
 ○品 質 木製、青漆塗、金の薄板巻き
 ○員 数 1腰
 ○寸 法 等 (大) 総長96.0cm 総反3.6cm 柄長23.0cm 鞆長73.4cm 鐺縦7.7cm 鐺横7.4cm
 (小) 総長50.6cm 総反0.6cm 柄長13.2cm 鞆長37.0cm 鐺縦4.9cm 鐺横3.85cm
 ○作品概要 印籠風の俵型の模様を一定の幅で刻んだ、いわゆる「印籠刻」の鞆で、腰元は緑色の青漆を塗り、先に金の薄板を薄く延ばした熨斗板を張り「金熨斗」としている。大小はそれぞれの柄の作りや、金熨斗や青漆の色合い、金熨斗の削ぎ方が逆であることなど、やや統一を欠くところもあるが、大きく時代を隔てる要素は看取されない。豪壮な印象を与える印籠刻や、洗めの緑色とあざやかな金色を片身替りに対比させた意匠など、桃山の雰囲気の色濃く残す一方で、彫金には一種の洗練うかがわれ、桃山様式を示す江戸時代前期の作とみなされる。重要文化財に指定された大小拵は本件を含めて4件しかなく、その存在は極めて貴重である。
 ○購入金額 40,000,000円



(重要文化財 金熨斗刻鞘大小拵)

- 7 ○種 別 <陶磁>
 ○名 称 色絵松梅文徳利 (いろえしょうばいもんとっくり)
 ○時 代 江戸時代 (18 世紀)
 ○品 質 色絵陶器
 ○員 数 1 口
 ○寸 法 等 高 18.5cm 口径 3.8cm 底径 9cm
 ○作品概要 赤・青・緑・金の四色で上絵付された陶器の徳利である。撫で肩で、瓢形を意識し、中央にくぼみを設けた形となっている。器面全体に細かな貫入がみられ、胴部には松と梅が鮮やかな色絵で描かれている。底部には「御菩薩池」の印が捺され、「極の手」と墨書されている。
 ○購入金額 7,560,000 円



(色絵松梅文徳利)

- 8 ○種 別 <陶磁>
 ○名 称 五彩印判手楼閣山水文大皿 (ごさいいんぱんてろうかくさんすいもんおおざら)
 ○時 代 中国・明時代 (17 世紀)
 ○品 質 色絵磁器
 ○員 数 1 枚
 ○寸 法 等 高 11.0 cm 口径 43.8 cm 高台径 21.3 cm
 ○作品概要 中国・漳州窯で焼かれた五彩の皿である。呉州青絵、青呉州ともいわれ、広義の意味では呉須赤絵とも呼ばれてきたものである。本作品は、素地となる白磁の胎土は粗く、底部には粗い砂粒が付着し、釉薬はやや灰色がかかっている。見込み中央には、二重圏線のなかに、蓬莱山であろうか、いずれにしても神仙思想を題材としたものと思われる山や楼閣が吹き出しや重ねられるように描かれ、その周りに四つの窓と印判が描かれている。
 ○購入金額 3,500,000 円



(五彩印判手楼閣山水文大皿)

- 9 ○種 別 <陶磁>
 ○名 称 五彩花鳥文魁文字鉢 (ごさいかちょうもんさきがけもじばち)
 ○時 代 中国・明時代 (17 世紀)
 ○品 質 色絵磁器
 ○員 数 1 口
 ○寸 法 等 高 11.0 cm 口径 20.0 cm 高台径 9.5 cm
 ○作品概要 中国・漳州窯で焼かれた五彩の鉢である。呉州赤絵とも呼ばれる。景德鎮窯の赤絵の技法をもとに、日本を含めた海外に向け、大量生産されたものである。素地となる白磁の胎土は粗く、高台に砂が付着しているなど、漳州窯で焼かれた作品の特徴がよく現れている。外面には蓮池水禽、花鳥などが描かれて、内面見込みには「魁」の文字が、赤、緑、黒などの上絵具で描かれている。
 ○購入金額 5,500,000 円



(五彩花鳥文魁文字鉢)

- 10 ○種 別 <歴史>
○名 称 甲寅記事画卷 平山省齋題 (こういんきじずかん ひらやましょうさいだい)
○作 者 等 平山省齋筆
○時 代 江戸時代 (19世紀)
○品 質 紙本着色
○員 数 1巻
○寸 法 等 縦29.5cm 全長1870.0cm
○作品概要 嘉永6年(1853)6月にペリー提督が率いる米国艦隊が相模国(現神奈川県)の浦賀沖に現れ、幕府に開国を要求した。いわゆる黒船来航である。日本が幕末に入ったのはこの時からとされる。本作品は、翌安政元年(甲寅年・1854)の二度目の様子を描いた18mを超える長い絵巻物であり、アメリカ側は横浜に上陸し幕府と交渉の末、日米和親条約が締結されたがその際の様子を描いた記録的絵画である。また、数多いペリー来航を描いた絵巻のうちでも出色の作品であり、保存状態も極めて良好である。
○購入金額 9,500,000円



(甲寅記事画卷 平山省齋題) 写真は部分